

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会 高齢者ケアセンター こぶし園	代表者	船越芳之	法人・事業所の 特徴	ご利用者の生活・介護（くらし）を支えることを念頭に置き、日常生活の支援を行っています。中重度の方でも安心してご自宅での生活が継続できるよう訪問を中心とし通い・宿泊の利用調整を行い援助しております。ご利用者が今まで暮らしてきた生活のスタイルを崩さず要介護状態となってもご自宅で暮らせるように、ご利用者一人一人に寄り添った柔軟な支援をしています。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護千秋	管理者	阿部恵理子	また複合型施設の特徴を生かし、他事業所のご利用者とも交流し活動を行っています。	

出席者	市町村職員	1人	知見を有するもの	3人	地域住民・地域団体	1人	利用者	0人	利用者家族	1人	地域包括支援センター	1人	近隣事業所	0人	事業所職員	3人	その他	0人	合計	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の項目を年度途中で確認する場を設ける。進捗状況や達成度を共有し、自己評価の項目が日々の業務に活かせるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 項目2（「～したいの実現について」は前年度の改善計画、今回の自己評価ともあまりできていないと評価した職員が多かった。ご利用者の～したいの実現に向けた支援を考えてはいるが業務に追われ後回しになったり、ご自身で意思表示ができない方の支援に苦慮している状況。 	<ul style="list-style-type: none"> 関わりの中でその人の成育歴を知らることが大事になるのではないか。 施設入所が決まった人でも本当は家に帰りたいかもしれない。ただ介護体制の問題で入所しかないという現実もある。 本人、家族、支援者それぞれの立場で「～したい」が違ってくる。押しつけにならないよう本人家族に寄り添って「～したい」の実現に繋げたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善計画の実現に向けた取り組みが行われているか事業所ミーティングで定期的に確認する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 季節ごとにしつらえを変更し雰囲気を楽しんでいただく。創作活動で作成した壁画などを飾るとご利用者の関心も高くなる様子がうかがえたため、興味を引くよううなしつらえをご利用者と一緒で考えながら環境を整えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も創作活動で季節に添ったものを制作し壁に飾るなど季節感を大切にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練で事業所に入った際しつらえまではよく見なかったが落ち着いた雰囲気だよと思った。 来訪時玄関に誰もおらず待つ時間が長いので改善した方がよい。訪ねてきた人にとって気持ちが良い環境にした方がよい。生け花や玄関の飾りはよと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所やセンター入口に季節感を感じられるしつらえを行う。 来訪者をお待たせすることなくすぐにセンター内職員に連絡がとれるよう、玄関チャイムや内線電話などの機器を調整する。 季節を感じられる創作活動を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染状況や感染対策に合わせて地域との関わりを増やしていく。感染状況が落ち着いた際にすぐ行動に移せるよう近隣の地域活動の予定 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は希望が丘小学校と大島小学校の運動会を見学に行った。皆様喜ばれており近くを通った小学生にご利用者から話しかけたりと楽しい時間を過ごすこと 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が利用者と一緒に外出する姿を見せることも地域と繋がるということではないか。 地域密着サービスであるため地域の方から情報を得るのも大事。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報を継続して毎月発行する。 センター全体でも地域の方に来訪してもらう行事などを計画し交流できる場を設けていく。

	<p>を確認していく（運動会や文化祭などへの参加が可能かなど）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報は今後も継続する。 	<p>ができた。</p>	<p>地域で要援護者や認知症の方を支える体制づくりが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事がコロナ禍でなくなり地域とのつながりや関係性が途絶えてしまった。結び直すのが難しい。 ・千秋は商業地であり町内会がない。事業所で考える地域との関わりがどのようなことを指すのかが分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事や活動に参加する。情報収集を行い早めに計画を立て実現する。
<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況を見ながら地域活動への参加を行っていく。訪問先で地域の方に会った際は挨拶などの関わりを継続し相談しやすい関係を構築する。 ・外出行事は近隣の公園などが多かったが、可能であれば感染対策をしながらご利用者が行きたいところに行けるよう計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の見学以外にもコミセンの行事など情報は集めたが実際に参加することはできなかった。地域の方と挨拶などの交流から馴染みの関係になり相談を受けられるようになるといいが、一番目の相談窓口が小規模になるのは現実的には難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事と一緒に参加したり散歩するだけでも地域の人に知ってもらええると思う。 ・地域で高齢者を支えることが大事なので顔の見える関係づくりやきつかけづくりができれば安心、と知ってもらうことが大事。 	
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議への参加は日頃接する機会が少なく有識者と接したり話を聞くことができ貴重な場であるため、次年度も介護職員の出席を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者以外の職員が運営推進会議に参加したことで直接意見を聞くことができ良い経験になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の心配な方という登録者以外と捉えがただが、登録者も地域のご利用者。運営推進会議で相談したり事例検討していくことも取り組みの一つだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の運営推進会議参加を継続する。運営推進委員からの情報や意見を事業所で共有し運営に活かす。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・センター全体の防災訓練に参加し、適宜マニュアルを変更していく。 ・防災担当の職員を中心に、ポータブル発電機の使い方や災害用備品の保管場所を定期的に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有事の際に使用する備品類の確認や避難経路、担架を使用した階段昇降訓練など定期的に防災訓練を行った。 ・運営推進会議でサポートセンター千秋の避難訓練を見学していただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に災害が発生した時に訓練が活かせるようにならないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を定期的に行い運営推進委員の方々からも見学してもらい評価を受ける。実際に災害が発生した際迅速に動けるよう避難経路を定期的に確認する。